

術後再建腸管に対する小腸鏡併用下の ERCP の 偶発症の検討

情報公開文書

日本赤十字和歌山医療センターでは、以下にご説明します研究を実施します。この研究への参加を希望されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。またお申し出された場合でも、いかなる不利益を受けることはございませんので、ご安心ください。

研究目的

近年、術後再建腸管に対する小腸鏡併用下の ERCP の有用性が報告されているが、偶発症対策も重要である。今回、当科で経験した症例の偶発症について検討した。術後再建腸管に対する小腸鏡併用下の ERCP は有用性も高いが、重篤な合併症も起こりうるので全身管理も含めた十分な知識と対策が必要である。

今回、術後再建腸管に対する小腸鏡併用下の ERCP の有用性を評価することを目的とした。2022 年 1 月から 2024 年 1 月までに当科で術後再建腸管に対してダブルバルーン内視鏡 (EI-580BT) 下 ERCP を施行した 80 件を対象に、目的部位への到達率、処置完遂率、処置時間、偶発症について検討した。研究期間は承認後から 3 年間の予定とする。

研究期間

2024 年 08 月 1 日から 2027 年 07 月 31 日 (3 年間) の予定

研究の対象となる方

2022 年 1 月から 2024 年 1 月までに当科で術後再建腸管に対してダブルバルーン内視鏡 (EI-580BT) 下 ERCP を施行した 80 件の内視鏡治療を受けられた方。

研究の方法

電子カルテを使用して、匿名情報に加工したデータを使用します。このデータをもとに、術後再建腸管に対する小腸鏡併用下の ERCP の治療成績や安全性、長期予後について統計学的に調査します。

使用する情報および個人情報の保護

患者さん個人番号 (ID) と氏名が含まれていない状態で、電子カルテからデータを抽出

します。また研究用パソコンは、インターネットにつながりません。論文化から 10 年程度データを保存しますが、その後適切にデータを破棄します。

研究資金・利益相反について

該当する利益相反はなく、研究資金は日本赤十字社和歌山医療センターから提供されます。

研究計画書などの入手・閲覧方法・手続き

研究計画書などは入手閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

個人情報の開示にかかる手続きについて

ご自身の情報を閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

研究責任者

松本 久和 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 副部長

共同研究者

中野 省吾 消化器内科 医師

上野山 義人 消化器内科 部長

お問い合わせ先

日本赤十字社和歌山医療センター 総務課

電話 073-422-4171 (代表電話)

所在地 〒640-8558 和歌山市小松原通 4-20